

Note Book.

新編研究
文藝概論
片岡重四郎

Y. H & Co

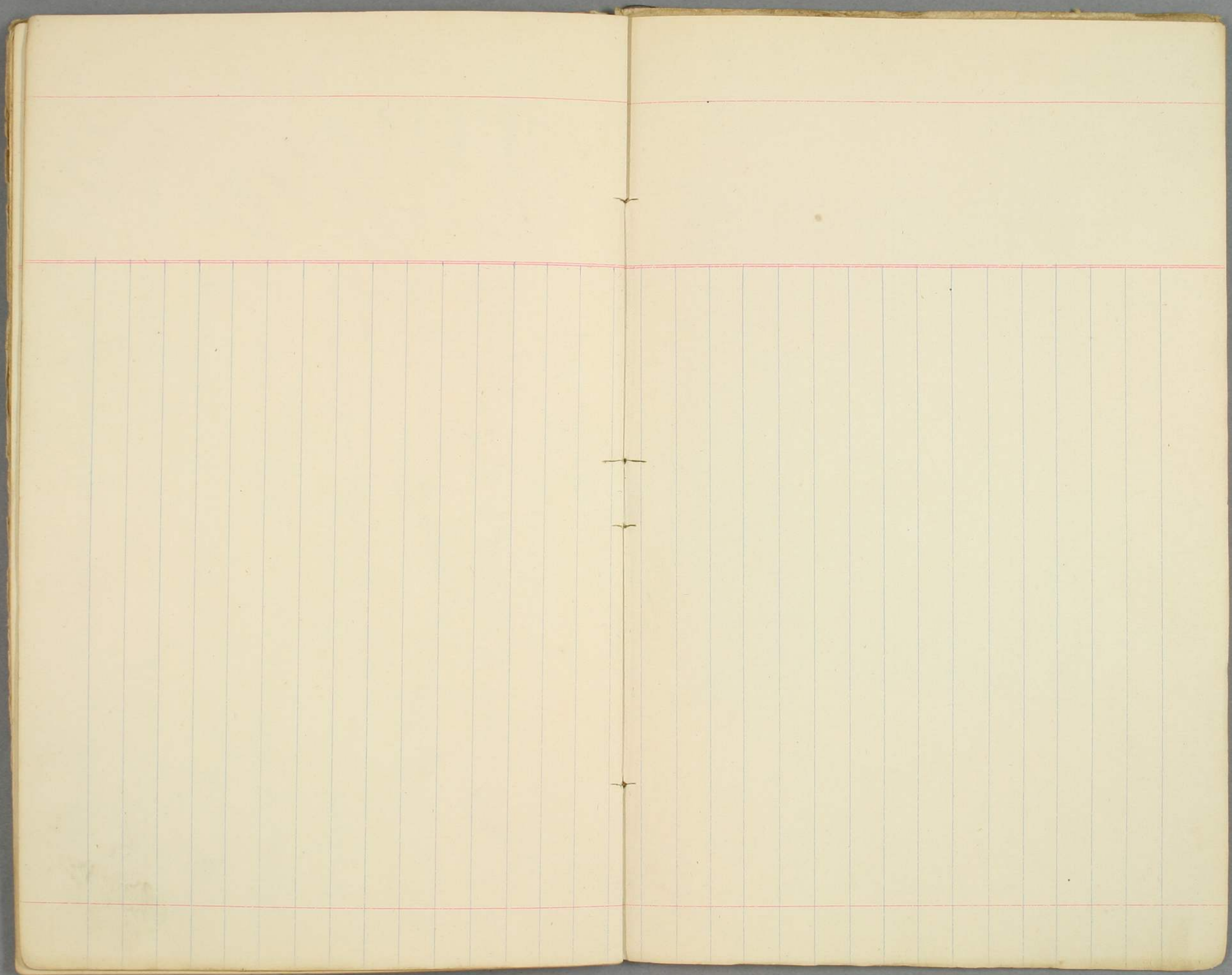
本問文庫
文庫 14
A112
1



文庫14

A112

1





に書きたる

了るはては

子の日に

あつた

Udoin (or Phthia)

Persecution

Moralism

Idealism

Transcendism

を

Moral
Immoral
Nonmoral
Demoral
の
125

文学概論

文学の全体をさすには之を二つ *Theology* の

的 *Methodology* 第一 *Methodology* として

得た *Methodology* 其目的論からして文学は

人の心に好むべきものとして之を *Methodology*

とす *Methodology* の二つは *Methodology* として *Methodology*

を *Methodology* として *Methodology* として *Methodology*

を *Methodology* として *Methodology* として *Methodology*

文子等の
遊戯見
Play-theory
(Hebomium)

遊戯の目的を人々の実用と認め、
遊戯も、防閑の~~目的~~ ありとす。之は字
の、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。

遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。
遊戯は、~~その~~ 中、~~に~~ 根強ひえ方とす。

~~Aristocracy~~

権威

Persuasion
Moralism

Unmoral
non-moral
immoral

Utilitarian Theory
(Utilitarianism)

功利説
功利論

功利論の最大の問題は、
結果は、善悪の比較によるが、
この比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。

善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。

善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。

善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。
善悪の比較は、常に善悪の比較による。

以上四行の文字観は、^{（一）}以上四行の文字観は、

流るる現に、^{（二）}流るる現に、

之に神、^{（三）}之に神、

七世、^{（四）}七世、

一、^{（五）}一、

あ、^{（六）}あ、

あ、^{（七）}あ、

あ、^{（八）}あ、

あ、^{（九）}あ、

あ、^{（十）}あ、

あ、^{（十一）}あ、

あ、^{（十二）}あ、

あ、^{（十三）}あ、

あ、^{（十四）}あ、

あ、^{（十五）}あ、

あ、^{（十六）}あ、

あ、^{（十七）}あ、

あ、^{（十八）}あ、

あ、^{（十九）}あ、

あ、^{（二十）}あ、

あるべき愛に... ~~...~~
愛を物になり捏造物になりて可成りである。
た、又知識は其の常程三喜四の管と別な
生活味より去りて直視であらねど之を知識
しく疑や犯さう世界より去りて ~~...~~
一と別視するより可成りであつた、一程は
~~...~~ 感情より ~~...~~ 力の強く
実生活に何事かの ~~...~~ 加助す所
あつて、人々の或根柢を深い疑ひの淵

此のふも日常の情をよほ遠く...
を修り出すのみならず ~~...~~ 生活
すべし吾人仕仕後一つの解脫を云へ得ん。
系は観照 ~~...~~ での ~~...~~
~~...~~ 之を ~~...~~ 観照するも目的である
けん ~~...~~ 観照とは ~~...~~ 個々の部
分の自分 ~~...~~ 是の ~~...~~ 日常の実際
生活を、 ~~...~~ 全体的、客観的に観照

社この思想があらはれたら、
それは西洋の例、
Dante は其の

Poetry 詩を、
Imagination の藝術である

其の模倣の文、
Layard

Comedy / Tragedy / Lyric / Pastoral / Satire /

Lyric の三つ、
Drama / Epic

はギリシアの Poetry の行と、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

と、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

かゝる、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

また、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

そのほか、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

の、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

詩、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

的、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

抒情的、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

其の、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

と、
Lyric の三つ、
Drama / Epic

① 2011.10.10 10:00 10:30

②

次に右の三つ別々の代々の近の代々の普通の中
しるすの事、小説、詩、をいふの事、別々であ
つて、~~その事~~の事、(義文) 神話、は、~~その事~~
あるは、是亦と書くは、二大、神話、類、に、
③ 別々の事、~~その事~~と、主観、と、よ
親の事、いふの事、~~その事~~の、劇、は、~~その事~~に、
して、~~その事~~ Play の、事、又、~~その事~~ Drama

④ 散文劇、の、事、~~その事~~と、~~その事~~の、戯曲

又、は、劇、の、形、~~その事~~に、~~その事~~

~~その事~~ 叙、~~その事~~は、~~その事~~い、~~その事~~後、~~その事~~物

⑤ 情、~~その事~~と、~~その事~~に、~~その事~~哀、~~その事~~減、~~その事~~し、~~その事~~刺、~~その事~~す、~~その事~~は、

⑥ 情、~~その事~~の、脈、に、~~その事~~属、~~その事~~す、~~その事~~の、中、~~その事~~に、~~その事~~し、~~その事~~劇、~~その事~~の、

⑦ 叙、~~その事~~の、由、~~その事~~に、~~その事~~其、~~その事~~附、~~その事~~属、~~その事~~に、~~その事~~其、~~その事~~の、

⑧ 叙、~~その事~~の、形、~~その事~~と、~~その事~~の、~~その事~~由、~~その事~~に、~~その事~~其、~~その事~~の、~~その事~~主、~~その事~~と、~~その事~~の、~~その事~~字、~~その事~~は、

⑨ 叙、~~その事~~の、形、~~その事~~と、~~その事~~の、~~その事~~由、~~その事~~に、~~その事~~其、~~その事~~の、~~その事~~主、~~その事~~と、~~その事~~の、~~その事~~字、~~その事~~は、

⑩ 方

了つた。美 ~~美~~ といふに比して其の何れかの

元書を言ひ上げは思ふこと ~~其の~~ ~~其の~~

之で ~~其の~~ ~~其の~~ 別に ~~其の~~ 地をさせしむる

又評神代文の文字をなすに比して其の

いふ、一は其の筆に文字の ~~其の~~ 相を

扱つて ~~其の~~ 其の ~~其の~~ 文を評神代文

から文字の一部とすといふも又一つは其の

つて ~~其の~~ 物は何であつても ~~其の~~ ~~其の~~

昔の情を述べるに生かすに比して其の

よに、其の文の趣を月を離して、筆

者個人の情を述べるに現るる個人

との ~~其の~~ ~~其の~~ 一部 ~~其の~~ ~~其の~~ たること

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 文字は ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり、
又 ~~其の~~ ~~其の~~ 筆 ~~其の~~ ~~其の~~ なることあり

通 *through* を依りて其の知的方面を凡の形
 やるの標也 *phantasy side* といふは *phantasy*
 方面を以て之を記し *phantasy* 状の意を以てす
 予の精神の中を以て *phantasy* の記号に列す 是れに
 用ひし之、其指之的方向 *phantasy* といふ事
 二の場合にせざる *phantasy* 的方面を以てす
 あり *phantasy* の用ひし *phantasy* の *phantasy*
 は其の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 各観 *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*

る指と、更に *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 たる *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* 主観
 と *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 する *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 二 *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 他 *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 之 *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*
 といふ *phantasy* の *phantasy* の *phantasy* の *phantasy*

観念の持つべきもの、主観的である。その
ことと物色する。この英文の観念的、
文法学的に述べらる。

その①

この文法と英文の形式と根拠の別
とすれば、文法は構造的、その英文は知的
的、その形式が、其の形式の別
上の表現として、構造的に述べらる。

観念的、その形式と根拠の別

観念的、その形式と根拠の別

その形式と根拠の別

その形式と根拠の別

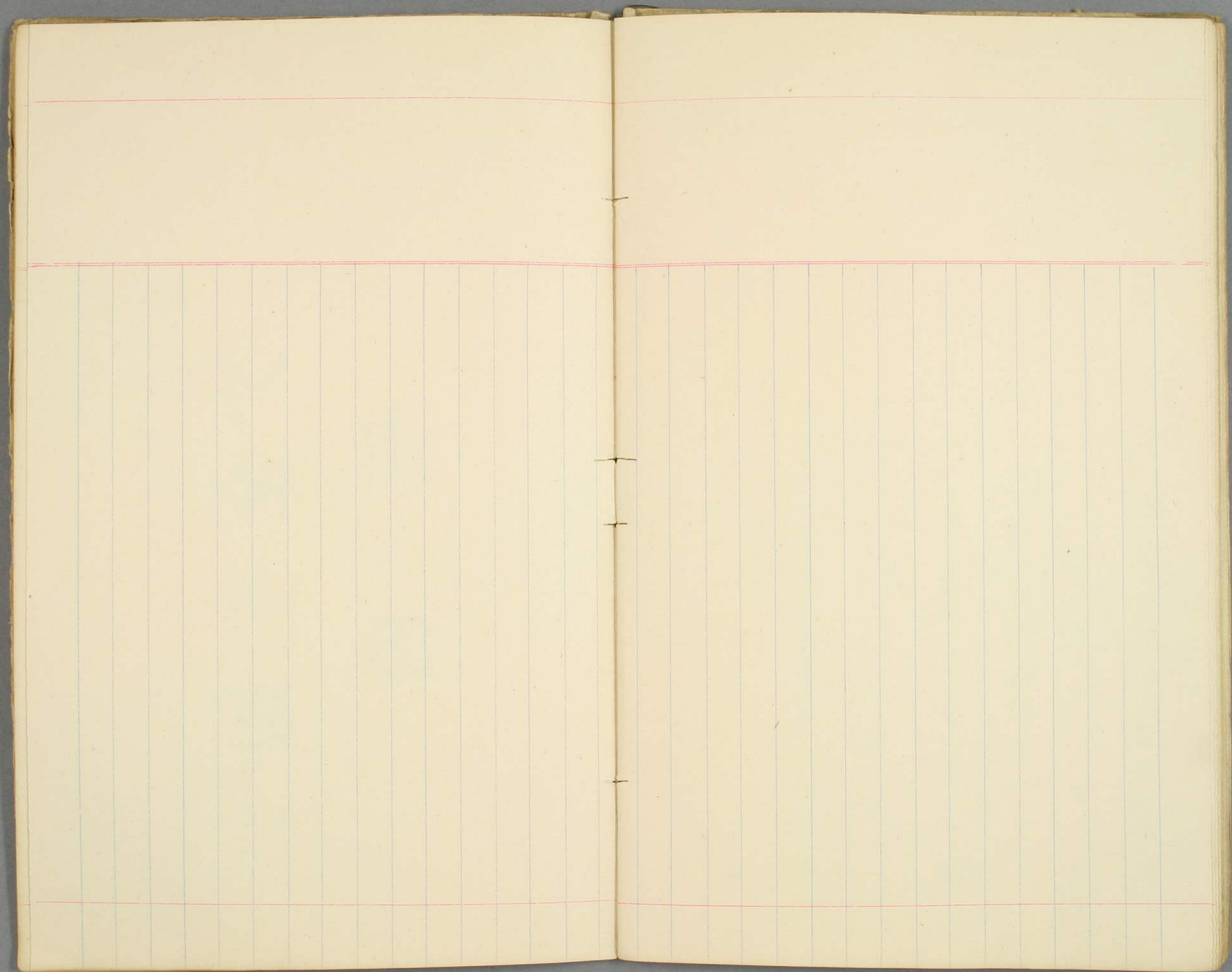
その形式と根拠の別

その形式と根拠の別

1911年

見立の記号

世の
 徳親女あびげあめ形
 内宮
 京
 感
 感
 感
 感
 感



以下全て
白紙

